

Rotary



Weekly Bulletin Vol.69 No.7 2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック 泉大津ロータリークラブ(創立1956.5.4)

週報 第3258回

会長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達
幹事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会(2024年8月23日) 第3258回

■ プログラム

卓話担当 深井 喜一 会員

■ 次週のプログラム

8月30日: 納涼例会

■ 今後の予定

- 9月6日: クラブフォーラム
櫻井 善章 社会奉仕部門担当理事

■ 祝 誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

四つのテスト

今月の歌

海

海はひろいな 大きいな
月がのぼるし 日がしずむ
海にお船を 浮かばして
行ってみたいな よその国

■ 先週の例会



会長の時間 渡辺 万寿 会長

「母は大ワシにさらわれた子供を三十年間探し続けた」
ろうべん
良弁杉の由来

今から約千三百年前の奈良時代のこと。
琵琶湖畔の志賀の里には茶畑が広がっていた。
澄み切った青空のもと、子供を連れた女性数人が茶摘み見物に来ている。乳飲み子をあやしなながら、実に楽しそうだ。

ところが、次の瞬間、茶畑に悲鳴がこだました。
一陣の突風が吹いたかと思うと、大ワシが舞い下り、さっと子供をつかんで大空に舞い上がってしまったのだ。母は空をにらんで泣き叫ぶ。

「返せ!返せ!光丸よ… 光丸よ…」
みつまる
雲のかなたに消えたわが子を追って、母は野を駆ける。

「光丸よ、今に、この母が助けに行くからね…。待っているのよ！」

夫に先立たれ、一子・光丸の成長だけを楽しみにしていた矢先の事件であった。母は、そのまま家を出て、当てもなく捜し回った。

「光丸を、知りませんか。大ワシに連れ去られたかわいい子供なのです」

叫び続ける彼女に、「かわいそうだが、もう死んでると思うよ」と言う人があっても、「きっと生きています。母を慕って泣いている声が、私の耳には聞こえるのです」と、あきらめる様子はなかった。

子供かわいさに、諸国を訪ね歩くうち、いつしか三十年の歳月が流れていた。

母は、ある時、川の水面に映った自分を見て愕然とした。髪は真っ白になり、しわ深く、やつれた顔…。あまりにも変わり果てている。

「ああ、あれから三十年もたったのだ。あの子がきている保証は、万に一つもないだろう。故郷へ帰り、せめて菩提を弔おう…」

夢から覚めた心地で、彼女は渡し船に乗り、帰路についたのであった。

ふと、同じ船に乗っている客のうわさ話が耳に入ってきた。

「今、この国でいちばん尊いお坊さんは、やっぱり、東大寺の大僧正、良弁様であろう」

「その良弁様は、杉の木の上で生まれられたと聞いたが…」

「違う、違う。何でも、子供をさらった大ワシが、東大寺の杉の木へ運んできたそうだ。もうちょっとで食われるところを、泣き声に気づいた僧侶が助け出したらしい」百雷のごとき衝撃が、母の胸に走った。「もしや、わが子・光丸ではなかろうか」

心はずでに奈良へ飛び、何も考えずに急ぐのであった。

ようやく東大寺の大門にたどり着いた。しかし、あまりにも広大な寺院に圧倒されてしまった。

「公家が参拝するような、こんな寺の大僧正様が、自分の子であるはずがない」

いったん、あきらめようとしたが、どうしても思い切れない。

たまたま通りかかった僧に、「良弁大僧正様にお会いしたいのですが…」

と願い出た。「私たちでさえ、めったにお側へ近づくことができない偉い方です。失礼だが、そなたの身分では、到底かなうまい」と、すげない返事。

しかし、わが子を捜し求めていることを、涙ながらに訴えると、「良弁様は、毎日、杉の大木の前を通られます。今、そなたが語ったことを紙に書き、木に張っておけば、必ずや読んでいただけるだろう」と教えてくれた。

緋の衣を着た良弁が輿に乗って杉の木に近づいてきた。多くの共人を連れている。老母は遠くで平伏し、見守っていた。

良弁は、木の前で輿から降りて、「人間として、この世に生まれ、仏法を開けるようになったのは、まさに父母のおかげであります。大恩ある両親は、今、どこにましますのでしょうか。一度でいいからお会いしたい…」と念じていた。そのうちに、木に張ってある紙に気がついた。一読して良弁は、「これを書いた人を探してくれぬか」と供の者に命じた。

「この近くには、みすぼらしい老女が一人いるだけです…」

「かまわぬ、その方をこれへ」

老母は、恐る恐る前を出てきた。

良弁は優しく語りかける。

「この紙を張った人を見ませんでしたか」

「それは…、おそれながら、私でございます」

驚いた良弁、「私もワシにさらわれた子供の一人です。詳しく聞かせてください」と尋ねずにおれなかった。

老母は、三十年間、どんな気持ちで諸国を歩き、わが子を捜し続けたかを切々と語りだした。子を思う親心に、聞く者、皆、涙せずにおれない。

良弁は言った。

「親子の証になるような品を、持っていらっしやいませんか」

老母は首を振り、「今となつては何もございません。ただ、あの子の衣に、夫が主君から拝領した錦で縫った袋をつけてありました。特徴がありますので、見ればわかります」

「ハッ」とする良弁。大事にしてきた布を取り出した。

「もしや、今、申された錦とは、これではあるまいか。ワシに連れられたきた時に身につけていた物の一部です」

一目見るなり、老母は、「アッ！ これです。間違いありません。この錦の布を縫ったのは私です…ということとは、良弁大僧正様が光丸…」

「おお、あなたが、私の母上…」

見つめ合う顔からは、はらはらと涙が流れ、抱き合つて、親子の名乗りを上げるのであった。

「ああ、申し訳ありません。長い長い年月、私がお母さまを苦しめ続けたのです。旅の途中で、食べる物がなく、ひもじい思いをされたことが、どれだけあったことか。宿にも泊まれず、冷え切った山野で夜露をしのいでおられる姿を思い浮かべるだけで、胸が張り裂けそうです。よくぞ三十年間も、私を見捨てずにいてくださいました。お母さまが、遠くから念じていてくださったからこそ、奇跡的に助かり、無事に私は成人できたのです。知らなかったとはいえ、どうぞお許してください。」
両手をついて、詫びる良弁。付き従う人も皆、もらい泣きし、老母をいたわって輿に乗せ、東大寺へ向かうのであった。

子を思う母心の、なんと広大なことか。
文楽や歌舞伎でも、「良弁杉由来」と題して、今なお上演され続けている。

幹事報告 根尾 玲子 幹事

○来週16日(金)はお盆期間の休会となっておりますので、ご留意下さいませ。又、事務局につきましても、8月10日(土)から8月19日(月)までお休みとなっております。

○次回の例会は、8月23日(金)となっております。

委員会報告

○本日例会終了後、みやびの間にて職業奉仕委員会を開催致しますので、関係者の方出席の方よろしくごお願い致します。(山本 博章 職業奉仕委員長)

○納涼例会の御案内は届いておりますでしょうか。

8月30日(金)受付は午後18時30分、開催は午後19時から、ホテルレイクアルスターアルザの例会会場です。登録料5,000円は、8月23日(金)の例会で徴収させていただきます。今回、納涼気分を皆さんに味わってほしいという思いを持ちまして、ドレスコードとしましては、通常の服装にプラスして浴衣、アロハシャツ、かりゆしなど涼しげな格好でぜひ参加して頂ければと思っております。

(細川 嘉則 親睦活動委員長)

■ ビジター

なし

■ 出席報告 会員数44名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
8/9	35名	9名	—	79.55%
7/26	36名	8名	3名	88.64%

■ メークアップ

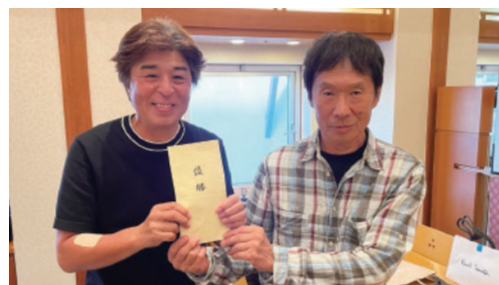
榎本(8/8 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
泉谷、西田(8/9 職業奉仕委員会)

■ ニコニコ箱

- ・川崎会員、本日は宜しくごお願い致します(渡辺)
- ・川崎様、本日の卓話を宜しくご申し上げます(根尾)
- ・川崎様、本日卓話よろしくご申し上げます(中田)
- ・先週例会欠席のお詫び(深井)
- ・先週の欠席のおわび(今井(克))

ニコニコ箱合計	18,000円
累計	139,000円

■ 8月11日泉大津ロータリークラブゴルフコンペ開催



優勝は 松村 泰英 会員



先週のプログラム

「呻吟語に学ぶ」



卓話 川崎 久典 会員

みなさん、こんにちは！

本日の卓話を担当させていただきます川崎久典です。本日は表題として「呻吟語に学ぶ」となっていますが、私の履歴書の後半部分のお話になります。

まず、「呻吟語」をご存じの方はいますでしょうか。ややマニアック書物ですが、明代末の中国古典の一つです。「呻吟語」は中国明代の処世訓の代表作、リョコン呂坤号は新吾、一般的に呂新吾と呼ばれることが多いです。

呻吟とはもともと病人が発するうめき声の意、呂新吾が当時の社会に向けて発した嘆きの声が「呻吟語」となりました。

当時の明代の社会はどうだったかという、ちょう

ど14代皇帝万歴帝の時、10歳で皇帝に即位するも当初は名宰相の張居正の補佐を受け財政の立て直しも成功しましたが、張居正が死去すると、政治は混乱、秀吉の朝鮮出兵があったのもそのころ。朝廷内部では国民そっちのけの政治党争が激化し、官僚の腐敗も進み、国内外の政局は一気に混迷を極めていきます。そんな時代背景でした。明代末期と現代とは、大きな違いもあります。ただ、社会に向かって呻吟の声をあげたくなるという点では、まったく同じではないでしょうか。

呻吟語の中に収録されているものの抜粋を一部紹介します

- 本分をわきまえない人が多い。
社会の混乱はこの本文を知らないことによる。
- 人の最大の過ちは自分だけが正しいとし、自分だけを守ろうとすること。《自是自私》
- 過ちを犯しているのに、それを過ちと認めない。
- 浮ついた議論が横行する風潮には心が痛む。
- 高い官職についている人が法を犯してはならない。
それを取り締まってくれる人はいないのだから。
- 多くの人が言っているから正しいとは限らない。
- 今の政治は人民を満足させられない。

これらは明代に限ったことでしょうか。今の時代にも通じることではないでしょうか。

「呻吟語」については、現在も勉強中であり、皆さんの前で多くを語れる状況ではないですが、私の人生の大事な部分を補って頂いたものであり、あわせて紹介させていただきました。

それでは、私の履歴書の後半部分を前回のおさらいをしながら進めていきたいと思います。

履歴書のおさらいとして、大学を卒業し、中小公庫（現日本政策金融公庫）に入りました。ここで、融資4年、審査1年経験し、中小企業の経営手法や社長様との会話のなかから多くのことを勉強させていただきました。

中小公庫の審査は「興銀方式」

※興銀方式の審査について

丁寧なフルレポート。起承転結ではないですが、こういう歴史の会社の沿革があって、こういう人たちが経営しています。評価できる、評価できないとか一方でこの会社が置かれている業界事情、いわゆる事業環境。その中でその会社の特色、販売力が強ければ、なぜ販売力が強いのか、これがずっと続くのかそういう調査をします。そのなかで、今の損益がどうなっているのか、収益力があるのかなのか、あるとすればどのような理由か、粉飾ではないのか。

次に財務諸表をみます。この会社の資産はこうで、負債はこうで、この中の資産はどれぐらい収益を生むのかなど。そういった物をベースに3～5年先の収支見通しを作成します。結論本文で1ページ、本文で5～10枚、付属資料で多くて20枚程度のものをしあげます。

そのなかで、カワサキに入社したのは公庫の先輩から「虚業と実業」の話聞いたことがきっかけだったと思います。実際には融資業務自体は虚業というわけではないですが、自ら物を作らず批評的な立場で分析し業務を遂行していくことと、モノづくりの現場を経験していくことの大事さを考え、早めに

実業の経験をしたほうが良いと考えたことでした。

カワサキに入社して15年、いろいろな軌跡を作りながら、実績を積み上げてきました。倉庫のピッキング業務からはいり、システム開発、営業、商品企画全般の指揮をとるようになりました。特にQVCでのTVショッピングを担当したことが一番の経験になりました。放送時間枠取りの企画書提案（営業）から生産し販売（出演）するところまで一気通貫で一人で行っておりました。そんななか、子会社の吸収合併などの時に社長との意見が合わず、一旦退社することとなりました。

退社して半年後に会社を立ち上げ、当初はポーチ類の別注を作ったりしていましたが、ひよんなことから北海道で小売事業をすることになりました。2年間は北海道帯広に住んでいましたが、3年目に大阪に戻り心齋橋に2店舗目、京阪くずはに3店舗目を出す話をしているときにカワサキに戻って来ないかと現会長より話があり一旦、事業をしめて、2019年10月にカワサキに戻ることとなりました。

実質、4年間カワサキを離れていましたが、この離れていた時期に時間の余裕ができ、久しぶりに読書をよくするようになりました。もともと、歴史小説が好きで、特に三国志など中国の歴史小説をよく読んでいました。よく読んでいた作家は「宮城谷昌光」さんで「夏姫春秋」「介子推」「孟嘗君」など読んでおりました。その中に「中国古典の言行録」という本があり、だいぶ前に購入して読んでいない本があり、パラパラとめくりながら読んでいると一つの言葉に目が留まりました。

「忍激の二字は、これ禍福の関なり」

（呻吟語の一節でした）

「忍激（じつと我慢するか、感清を発散させてしまうか）の二字こそ、幸と不幸の分かれ目である」

と当たり前のことが書いてありました。

しかし、自分にとっては小学生からずっと怒りっぽく、当然学生時代から社会人に至るまで、程度の差こそあれ、ぶつかりながら歩んできたことを思い起こさせました。その時は自分で会社を立ち上げていた時なので、この言葉は心にとどめて経営をしていこうと感じました。そのあと、収録されている書物に興味をわき「呻吟語」を勉強するようになりました。

「呻吟語」を読んでいくと、自分の足りないものが多く、いくつか響いたものを紹介します。

- 自是自私…自分だけが正しいとし、自分だけを守ろうとする。
 - 深沈厚重…心が落ち着いて物事に動せず、どっしりしていることは第1の資質。
(小さなことにこだわらず、才知と武勇に優れていることは第2の資質)
(聡明で弁舌に優れていることは第3の資質)
呻吟語では「静」を重視し、全館を貫く思想となっている。
 - 親の心を心配する…人倫の基本は親子の関係でしょう
「孝」親の心を思いやりその気持ちに従う最高の「孝」。
体のことはいたわるが、親の気持ちをわかろうとしないのは最低の「孝」。
さらに最低なのは親孝行していますよとポーズだけはしておきながら実は親の体のことさえ心配していない。
- 他にもいろいろとありますが、人間錬磨の書といってもよいのではないかと思います。

カワサキに再入社する前にこの本に出会えたことが今につながっていると思います。うまくは言えないのですが、以前は会社の業務に対して自分がこうしたいということが先に立っていた感じがします。現在ではカワサキは経営と資本がきっちり分かれており、経営側の役割としてオーナーがどうしたいかを考え、経営を行っていくという感じに心掛けています。

まだまだ修行中の身ですが、一層修練を励み、発展につなげていきたいと考えています。
これにて、私の卓話を終了させていただきます。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか